

第 15 回 日本赤十字社 診療放射線技師会 九州ブロック研修会

平成 26 年 9 月 13 日・14 日

プログラム

1 日目 (9 月 13 日)

13 : 00 受付開始 演題発表受付

13 : 30 開会挨拶

13 : 40 福岡赤十字病院院長挨拶

福岡赤十字病院院長 寺坂 禮治

14 : 00 特別講演 I 「悪性リンパ腫と画像診断」

福岡赤十字病院 血液内科部長 谷本 一樹
(座長) 福岡赤十字病院 山口 英雄

15 : 00 教育講演 「SOMATOM が切り開く新たな CT フィールド」

シーメンス・ジャパン (株) 桃沢 芳典
(座長) 福岡赤十字病院 八波 誠一

16 : 00 施設紹介 「福岡赤十字病院」

福岡赤十字病院 備後 公史

16 : 30 福岡赤十字病院 施設

17 : 00 ブロック代表者会議

18 : 30 情報交換会

福岡東映ホテル

2日目 (9月14日)

9:30 司会挨拶

9:40 一般演題発表

(座長) 福岡赤十字病院 馬場啓介

「足部立位撮影を安全に行う為に ～TQM 活動を通じて～」

大分赤十字病院 日野 雄介

「Elekta Synergy の使用経験」

熊本赤十字病院 藤井 竜一

「SEMAR を用いた金属アーチファクト低減効果の有用性の検討」

熊本赤十字病院 岩崎 雄太

休憩

「当院における CT 業務の変遷」

唐津赤十字病院 平田 一英

「心筋シンチ減弱補正 SSPAC の使用経験と基礎的検証」

福岡赤十字病院 永尾 卓也

「CT 室内における造影剤副作用発生例への対応」

福岡赤十字病院 伊達 明博

11:00 特別講演Ⅱ

「アロマセラピーとストレスケア」

アロマセラピスト・診療放射線技師 村上 摩弥

(座長) 福岡赤十字病院 桑野 さゆり

12:00 閉会の挨拶

次回担当施設紹介 挨拶

修了証書授与

第 15 回 日本赤十字社 診療放射線技師会 九州ブロック研修会

今回の研修会は、40名の参加者があり、盛大に行われました。特別講演2題、教育講演1題、一般演題6題と内容も充実しており、大変有意義なものとなりました。情報交換会では、他施設の方々との会話もはずみ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

以下に研修会の内容を報告します。

特別講演 I 「悪性リンパ腫と画像診断」

福岡赤十字病院 血液腫瘍内科部長 谷本 一樹



悪性リンパ腫とはなにか。症例を提示して画像診断について分かりやすく解説していただきました。

特別講演 II 「アロマセラピーとストレスケア」

アロマセラピスト・診療放射線技師 村上 摩弥



香りで何故リラックスできるのか？ストレスと脳の関係や医療現場での利用の可能性について講演していただきました。実習では、バスボム（入浴剤）作りを体験しました。

教育講演 「SOMATOM が切り開く新たな CT フィールド」

シーメンス・ジャパン（株） 桃沢 芳典



2管球システムの SOMATOM Force について、低被曝と圧倒的な撮影時間の短縮を可能とする最新の情報を紹介していただきました。

一般演題

① 「足部立位撮影を安全に行う為に ～TQM 活動を通じて～」

大分赤十字病院 日野 雄介



足部立位撮影を改善することを目的として、TQM を通じて安全面において改善された上に撮影方法の統一化を図られ、再現性のよい画像を提供することを可能にした。

② 「Elekta Synergy の使用経験」

熊本赤十字病院 藤井 竜一



今年の6月に放射線治療装置である **Elekta Synergy** が導入された。今回の導入により、**4DCT** を用いた体幹部定位放射線治療が可能になったことにより、腫瘍に効率よく照射することができた。

③ 「SEMAR を用いた金属アーチファクト低減効果の有用性の検討」

熊本赤十字病院 岩崎 雄太



今年7月、**Aquilion One** における新しいソフトウェア **SEMAR** (金属アーチファクト低減処理) が導入された。**SEMAR** を使用すると通常金属アーチファクトが低減されて画像向上が期待されるが、実際に画像を検討したところ、非常に効果のあるものから新たにアーチファクトが発生し画質が低下した症例も経験した。

④ 「当院における CT 業務の変遷」

唐津赤十字病院 平田 一英



当院導入のCT1号機から現在までの機種、検査法、検査件数などについて懐かしい画像とともに紹介しました。

⑤ 「心筋シンチ減弱補正 SSPAC の使用経験と基礎的検証」

福岡赤十字病院 永尾 卓也



心筋シンチでは体内でのガンマ線の減弱が原因で下壁、中隔領域で画素値が低下する事が知られており、病的欠損と見分けがつかず、診断の精度を下げる一因となっている。SSPAC法は新しい補正法として有用であると思われるが、心尖部では過剰に評価される場合もあり、その対処について検討が必要である。

⑥ 「CT 室内における造影剤副作用発生例への対応」

福岡赤十字病院 伊達 明博



当院にて、実際に経験した造影剤副作用発生例の紹介と、それに対する対応の振り返りを行った。副作用発生時に自分から行動ができるよう、日頃から対応を想定して検査を行うことが大切である。